

(シラバスNo.22)

科 目 名	教育と哲学特論	科目コード	24P-K3	
		科目群名	関連科目	
	Advanced Seminar in Philosophy of Education	必修／選択	選択	
		教職	小・中・高	
担当教員	山梨 彰	単位数	2	

【実務内容（実務家教員の場合）】
該当しない

【授業概要】

教育哲学は、教育を哲学的・科学的に考察する方法を提起し、同時に教育のあるべき理念を提示することがその課題である。その考察においては、個人と社会との関係性から、及び歴史的文脈から教育を把握することが肝要である。また教育哲学は具体的な教育実践を反省的に把握する視点を提供し、教育現場の日常性を理念的に見つめ直す役割を持つ。歴史的には 19 世紀からの世界レベルの近代化という大きな社会変動に伴って、現代の諸問題に通じるさまざまな教育に関わる哲学が現れた。本科目では 18 世紀後半まで遡って、ロック、ルソー、コンドルセ等の思想家・哲学者の教育にまつわる古典的な所説の要点を踏まえた上で、アメリカの教育哲学者のジョン・デューイの著作の検討を中心軸にしながら、イヴァン・イリッチ、ネル・ノディングズ等の 20 世紀の教育思想を検討していき、現代教育のありようを理念的に考察する。余力があれば、M・フーコーの『監獄の誕生』における「規律・訓練」を論じる「権力論」、さらにブルデュー・パスロンの『再生産』での教育における「文化資本」の再生産論なども考察したい。

【授業の到達目標】

- (1) 各回の授業で扱う教育哲学の文献に関して自分の意見を論理的にまとめて説明できること。
- (2) 教育哲学が提起している諸問題を的確に理解し、教育の現状を考察する自分なりの視点を獲得すること。
- (3) 授業で扱った教育哲学者の教育理念をまとめ、日本の学校事情や自分の教育理念と比較しながらまとめ、発表できることを到達目標とする。

【授業の形態】

メディア授業の実施【あり】

<授業の特徴>（毎回実施に◎、適宜実施に○を付けてください）

形態	実施	具体的に実施すること
講義	○	教育哲学の根本的問いかけの考察と思想史的概観
グループワーク・質疑	◎	教育哲学の基本理念についてに関する議論、意見交換
演習		
プレゼンテーション	◎	教育哲学に関する各文献の内容の他の受講生への紹介
制作		
その他 ()		

【授業計画】

回	内 容
1	教育哲学の問いかけとその今日的意義。
2	近代の教育思想から（ロック、ルソー、コンドルッセの思想）
3	プラグマティズムと J. デューイの哲学概説
4	デューイの教育哲学概説～『子どもとカリキュラム』から

5	デューイ『学校と社会』より「学校と社会進歩」
6	デューイ『学校と社会』より「学校と子供の生活」
7	デューイ『学校と社会』より「教育における浪費」
8	デューイ『学校と社会』より「初等教育における心理学」、「フレーベルの教育原理」
9	デューイ『学校と社会』より「仕事の心理学」、「注意力の発達」
10	デューイ『経験と教育』における「経験」概念
11	デューイ『経験と教育』における「自由」と「社会的統制」の概念
12	I. イリッチ『脱学校の社会』における「学校化された社会」と「社会の脱学校化」の概念
13	I. イリッチ『脱学校の社会』における conviviality と自律的教育への展望
14	N. ノディングズ『学校におけるケアの挑戦』におけるケアリングの概念
15	N. ノディングズ『学校におけるケアの挑戦』におけるケアリングと教育、最終討論

【履修上にあたっての準備】

教育哲学に関する前提知識はとくに必要はないが、できれば近代から現代の哲学に関する概説書や評価の定まった哲学者の文献（イギリス経験論哲学、大陸合理論、ドイツ観念論などの領域の著作、例えば、アダム・スミスやヒューム、ジョン・ロック、スピノザやデカルト、カント、ヘーゲルなど）を読んでいることが望ましい。また、講師と共に現代的な教育課題を考えるという姿勢で積極的に発言していただきたい。

テキストとして用いる下記に示した本を手に入れておいていただきたい。

【授業外学修（予習・復習）】

予習としては、次の文献を読んでおいていただきたい。テキストを分担してレジュメを作成し、各回に報告していただく。レジュメには受講生間で討論する 2～3 の論点をあらかじめ考えておいていただく。また各回の授業の「振り返り」を提出していただく。

【評価方法】

授業内でのレジュメのプレゼンテーション(34%)、授業内での発言（33%）、「振り返り」の内容(33%)の割合で総合的に判断、評価する。

【教科書】

- ・ジョン・デューイ 市村尚久(訳) (1998)『学校と社会・子どもとカリキュラム』講談社学術文庫 (ISBN: 978-4061593572)
- ・ジョン・デューイ 市村尚久(訳) (2004)『経験と教育』講談社学術文庫 (ISBN: 978-4061596801)
- ・イヴァン・イリッチ 東 洋・小澤 周三(訳) (1977)『脱学校の社会』東京創元社 (ISBN: 978-4488006884)
- ・ネル・ノディングズ 佐藤学(監訳) (2007)『学校におけるケアの挑戦』ゆみる出版 (ISBN: 978-4946509414) (入手が難しければ、購入しなくとも構いません)。

【参考図書】

- ・ジョン・デューイ 河村望(訳) (2000)『民主主義と教育』人間の科学社 (ISBN: 4822601897)、あるいは同書 松野安男(訳) (1975)『民主主義と教育』(上、下) 岩波文庫 (ISBN: 4003365232, 4003365240)
- ・ミシェル・フーコー 田村 俣(訳) (1977)『監獄の誕生』新潮社 (ISBN: 9784105067038)
- ・ブルデュー、パスロン 宮島 喬(訳) (1991)『再生産』藤原書店 (ISBN: 9784938661243)
- ・新井 保幸・高橋 勝(編) (2006)『教育哲学の再構築』学文社 (ISBN: 4762015245)
- ・今井 康雄(編) (2009)『教育思想史』有斐閣 (ISBN: 9784641123847)
- ・パウロ・フレイレ 小沢 有作他訳(1979)『被抑圧者の教育学』亜紀書房 (ISBN: 4750579076)
- ・宮澤 康人(編)『近代の教育思想』(三訂版) (2003)放送大学教育振興会 (ISBN: 459523614X)
- ・マイケル・アップル 浅沼茂・松下晴彦(訳) (1992)『教育と権力』日本エディタースクール出版部 (ISBN: 4888881863)
- ・佐々木 賢、山梨 彰『商品化された教育』(2009) 青土社 (ISBN: 9784791765102)
- ・松岡亮二 『教育格差』(2019) ちくま新書 (ISBN: 9784480072375)

- ・杉浦宏（編）『現代デューイ思想の再評価』（2003） 世界思想社（ISBN：4790709957）
 - ・上野正道 『ジョン・デューイー民主主義と教育の哲学』（2022）岩波新書（ISBN：9784004319450）
 - ・学習指導要領及び解説（小学校・中学校・高等学校）：文部科学省
- その他は授業の際に提示する。